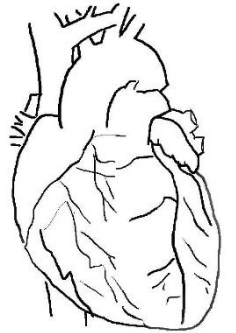




「忌」という漢字はどういう印象を受けますか。

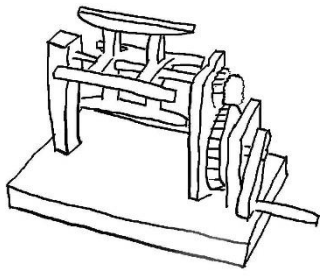


おそらくは、「死」とか「穢れ」というイメージをもつ方も多いかもしれません。実際に辞典を引いてみますと

「避ける・戒める・控える」

などがあります。しかし、漢字の成り立ちを見ますと、「己」は、三本の糸をつむる糸巻きの象形文字、「心」は、心臓の象形文字。どちらも、「整える」という意味があります。「忌」は世間の印象と成り立ちが大きく違うようです。

忌にはもうひとつ、尊敬するという意味もあります。私は、忌は後者で用いたのです。一周忌、三回忌、忌中と「忌」が使われますが、これは穢れとか故人のためではなく、己の心をもう一度確認して、整えさせて



ていただく場なのだと思います。だから、手を合わす回数が多い方がいいのです。これが浄土真宗の仏事の考え方です。

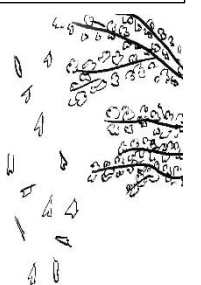
私には G.W. ゴールデンワークに見えるのだと名任取

こんなところに

# 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

## いろは歌



いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ  
うゑのおくやま けふこえて あさきゆめみし ゑひもせす

誰もが知ってるいろは歌。実は、仏の教えが込められています。漢字にすれば、

色はにほへど 散りぬるを 我が世たれぞ 常ならむ  
有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず

訳しますと、花は咲き誇り、そして散るのように、この世で誰が永遠に生きることができましようか。生まれたものは必ず滅びなければなりません。しかし、そう聞いてはいませんが、いざとなると悩むのが人間です。その深い迷いの山を越えさせていただいたならば 損得にとらわれた夢を見ることもないですし、欲望の酒に酔う事もありません。

この優れた歌は、涅槃経というお経の中で説かれている

「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為楽」を訳したものだと言われています。この偈が説かれている部分におもしろいエピソードがあるのですが、それはまた説教にしますのでお楽しみに。

